

柏崎・刈羽原発と柏崎市、もんじゅを視察

09年12月・原子力問題調査特別委員会

中越沖地震により日本ではじめて被災した東電柏崎刈羽原発。原発の状況と立地自治体の対応、また95年12月のNa漏洩事故後14年間、運転を停止している原子力研究開発機構のもんじゅは今どのような状況になっているのか、それぞれの調査と課題把握を目的に昨年12月中旬、原子力問題調査特別委員会で視察をしてきました。視察に先立ち私は、委員会に次のような質問事項を提出しました。

東京電力柏崎刈羽原発に関する質問

1. 運転再開の可否を含めて各号機ごとの今後の予定はどのようになっているのか。
2. 各号機ごとの異常の状態の件数及び内容、復旧状況はどのようか。
3. 運転を再開した7号機で、燃料破損が確認され、運転を停止したといわれている。燃料破損は中越沖地震による影響と考えるべきではないか。
4. 地震による停止後、2年以上運転再開できないことは、深刻な問題を抱えていると受け取れるが実状はどのようか。
5. 原子炉建屋(原子炉格納容器を含む)の設計地震動はどのくらいか。また原子炉建屋の耐震性は、どのようにして確認しているのか。
6. 何号機かははっきりしませんが、地震発生直後に、原子炉建屋(だったように記憶していますが)が数度ほど傾いたという新聞報道があったと思いましたが、事実関連があればお願いします。
7. 中越沖地震以降の3号機の火災以後、頻繁に火災が発生している(約2年間で11回)。なぜこのようなことがおきているのか。

もんじゅに関する質問

1. Naが大気中に漏れたトラブルだけで、試験運転を再開するのに14年間も要している。水とNaが接触することを想定していないのか。
2. これまで、運転再開の予定を何回も発表しながら、再三にわたり変更してきているのはなぜか。
3. 14年間も停止状態の間のプラント全体をどのように保管してきたのか。
4. 運転再開後の運転計画(予定)はどのようになっているのか？ その際の運転維持費はどの程度を予定しているのか？

委員会で質問を出したのは大名だけ！

「12月中にどうしても視察に行こう」と強調した委員、またそれに賛成した委員さんら、誰も質問事項を出しませんでした。私は、公費で行かせていただくわけですからしっかり学ばなくてはと、住民の方の声をいただきながら質問をまとめました。

委員会から事業所等に事前に届けられた質問は、言葉遣いを多少変えたものの、これだけでした。

原子炉は止まりこそしたが、施設の被災は深刻！

地震の想定規模が甘い、新耐震基準が未確立などがまず心配されます。「岩盤の上に建てるから地震のとき原発にいるのが一番安全」などと言われる一部の方がいますが、今回の被災はそれを見事に否定しました。(つづく)

みえ子のひとりごと

鶉滑稽をご心配いただく声が寄せられましたので、簡単ですが…

産卵は空き犬小屋で、迷い鶉滑稽

居候を続けておよそ2年。名もないまま放し飼いの日々を送り、産卵はこれまで、紫陽花の根もとや肥料袋の中などで鳥の目を避けてきました(つもり)。しかし最終的には見つけれ、悲しい悲しい別れをしてきました。最近また、初めてのときのように空き犬小屋で産んでいます。しかし、ドアを開けたままですので、食事で離れたちよつとの間などに持っていかれてしまいます。いよいよ抜本的な解決が求められているのでしょうか。

